

〔釈文〕

嘉永七甲寅十一月四日五ツ半時より

諸国 大地震大津波 三編

御公儀様難有

御仁誠に依而市中

の人々是を悦び寔ニ

有がたく思わぬもの

老人もなし然るに

諸色米万端何ニ

不寄直段追々下直ニ

相成悦ぶ事限りなし

依て市中の人々第一

火の用心大切ニ相守り

万事の事心を懸物

事諸人ニ至る迄相慎

候事

大坂川口大津波の大略

安治川凡近辺死人凡

三百人ヨぎこば近辺死人

凡式百人ヨ寺嶋同死人凡

五百五十人ヨ堀江川近辺

同三百人ヨ道頓堀木津川

近辺ニて凡三百人ヨ其ほか

所々二十人三十人在る日ハ

十人五人と即死いたし候

事ハ世にハめづらしき事也

もつともけが人ハ其数し

れず即死の数凡式千余

に聞へ候此人々一度二声

をあげなきわめき其

あわれきはなすニはなし

され申さず候

十一月五日くれ六ツより夜

五ツ時過までの事ニ御座候

伊勢山田并志州鳥羽

右同日大地震大あれ

にて人家大躰半分

はくずれ大いなる

こんざつなりその

あわれさ申にたへず

こゝに御氣のとく成ハ

御師さま八年頭の

したくをいたされ

大坂表へのぼり此度

の大坂のつなみにて曆

等進物のたぐい難

船せし御方もあり

まことにく前代未

聞の事也尤太神宮

御社并ニ末社社家の

家々地震がために少々

いたみ候処数多く

▲志州鳥羽辺ハ同日ニ

大地震一通りならず

大ゆりニて人家くずれ候

事ハ大躰之国ハ半ぶん

はかりくづれ候所へ大

津浪打来り御家中

町家とも大半ながれ

人々の難義致し候ハあはれ

なり其大變文面の

しらせのうつし是ニしるす

尾州路 書しるす事数

多有とも略ス

同日同刻大地震にて

町家損じたる事その

数をしれず寺院名古や

御城下御家中ハ申ニ不及

大地震ニ而大崩言語に

のべがたくまことにく

あわれなる次第なり

〔絵図〕

伊勢四日市 十一月四日

辰ノ半刻より

大地震ゆりはしめ其

おそろしさ弁述に

のべがたくもつとも

家かず三十けん計り

ゆりくづれ男女

子どもにいたる迄その

混雑おそろし事成ニ同日

申之刻ニ迄ニ又ゆり大地われ

益々強くゆり人々其中へ

落込る事ハ其数しれず

又同日いせ津へん同様なり

尤家かず二十四五けんも

くづれそんじたるは

其数しれず外ニ白子

かんべ松坂桑名へん

大じしんなれども

少々のいたみ

〔絵図〕